

研究室紹介

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部 中央農業試験場 病虫部

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構（道総研）は平成 22 年に 22 の道立研究機関を統合して発足しました。同機構は農業、森林、水産、工業・食品加工、環境・地質、建築の 6 分野から構成されていますが、農業研究を管轄する部署として農業研究本部が設置され、八つの試験場・センターより構成されています。その代表機関が中央農業試験場です。北海道夕張郡長沼町に位置し、水田やタマネギ畑等に囲まれた田園風景の中に開場して 52 年を経過しています。

北海道は行政区分として 14 の振興局があり、農業研究本部内の試験場は管轄する振興局が決まっています。中央農業試験場は石狩、空知、後志、胆振および日高を担当しています。これら地域から寄せられる研究ニーズに対応して試験課題を立案しています。また、中央農業試験場は六つの部に分かれており、病害虫の研究を担うのが病虫部です。さらにクリーン病害虫グループ、予察診断グループに分かれ、総勢 14 名が在籍しています。以下に主な研究課題を紹介します。

「コムギなまぐさ黒穂病の防除対策」

一部地域で発生が認められていましたが、年々北海道における発生地域が拡大しており、発生圃場では廃耕を基本としていることから問題が大きい病害です。平成 28 年から課題化をして取り組んでいます。本州での防除対策を参考に組みましたが、有効とされる薬剤の防除効果が劣るなど異なる結果が得られたため、発生し



中央農業試験場の庁舎

〒 069-1395 北海道夕張郡長沼町東 6 線北 15 号
TEL 0123-89-2001



ブロッコリー黒すす病菌の分離作業

ている菌種と薬剤の効果を再検討し、北海道独自の対策を構築することを目指しています。

「光応答反応を利用した害虫管理技術」

北海道では平成 3 年から全国に先駆けて減農薬・減化学肥料栽培に取り組むクリーン農業プロジェクト研究をスタートさせ、27 年の研究を積み重ねています。

光を用いた防除技術の開発は農薬に代わる防除技術として近年研究が進んでおり、北海道でもスイートコーンのヤガ類、各種作物のツマグロアオカスミカメ、大豆のマメシンクイガでの技術開発を目指します。害虫にとっては知見のないものも含まれていますので、長期的な研究を視野に取り組んでいます。

「発生予察事業」

道総研では北海道からの受託研究として発生予察事業の一部を請け負っています。その拠点として中央農試病虫部予察診断グループがあり、各試験場、地域から送られてくるデータのとりまとめ、病害虫発生予察情報や注意報等の発出について北海道病害虫防除所（中央農業試験場に 2 名駐在）と連携しながら業務を進めています。

このほか、イネばか苗病の伝染経路解明、ブロッコリー黒すす病の防除対策等地域の問題解決に向けた課題にも取り組んでいます。また、近年、工学技術を農業場面にも展開する研究の要望・連携が多く寄せられてきています。今後は多くの方々と情報交換や課題化を積極的に取り組んでいきます。

（病虫部長 堀田治邦）